

## 第2回 大山崎町地域創生推進会議 会議録

1. 日 時 令和2年2月7日（金）午後2時30分～午後4時
2. 場 所 大山崎町役場3階 中会議室
3. 出席者 （委員） 座長、中田座長代理、青木委員、太田委員、岡委員、尾関委員  
加藤委員、五島委員、小西委員、寺井委員、山本和俊委員、山本哲司委員  
（欠席委員） 奥野委員、野口委員、山形委員  
（事務局） 事務局、安田政策総務課担当課長、斉藤政策総務課参与、  
松尾政策総務課企画観光係リーダー  
（委託業者 株式会社日本都市計画研究所：岩溪、久末）

### 4. 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 【資料1】人口ビジョンの推計について
- (3) 【資料2】アンケート調査結果の速報について
- (4) 【資料3】「大山崎町地域創生推進会議開催」日程案（修正版）

### 5. 概要

#### 1 開会

- 座長あいさつ
- 会議の出席状況の報告、山本哲司委員の紹介
- 傍聴者1名の入室許可確認
- 配布資料の確認

#### 2 議事

##### (1) 人口ビジョンの推計について

- 日本都市計画研究所  
【資料1】人口ビジョンの推計について、説明。
- 委員  
この推計は住民基本台帳人口実績に基づくものか。
- 事務局

人口統計には2通りある。一つは推計人口で国勢調査人口をベースにして毎年の転出・転入等の状況を加味して算出したものであり、実際に大山崎町に居住している人口に相当する。もう一つは住民基本台帳人口で、町に住民票をおいている人口だが、住民票だけおいて住んでいない人も含まれる。したがって例えば令和元年ではこの二つは大きく違っている。

今回の資料は国勢調査人口に沿った推計人口をベースにしたものである。

○委員

1 ページでは平成 30 年で 16,050 人だが、17 ページの推計では 2020 年で 15,680 人と少ない。

○事務局

17 ページ以降の推計は国勢調査人口をベースにしているので、1 ページの住民基本台帳人口とは差がある。

○座長

一般的には人口データはどちらを扱うのか。

○事務局

一般的には国勢調査人口をベースにした推計人口を使うことが多い。

○委員

この資料の趣旨がわからないのだが、推計なので参考にして欲しいということか。

○事務局

この会議の場で A 案、B 案のどちらにするか決定していただきたい。A、B の違いは、開発による今後の増加をどうみるかであって、通常の推計では社会要因を考えないが、B 案は現在進行している開発の影響をみている。

○座長

総合戦略を策定するにあたって、まず人口推計しないといけない。ただ、現状の増加の動向をどう加味するかということだと思う。

○委員

A 案のリスク、B 案のリスクは何か。

○事務局

実績が推計を上回った場合補正できるが、下回った場合はいわゆる過剰投資というリスクがある。

○委員

開発は現在も進行中だが、今後の開発余地はあるのか。

○事務局

余地は少し残っているが、実際のところ不透明なところがある。過去の本町における推計の中には、19,000 人という試算もしていた。

○委員

総合計画に基づいて各種の整備計画を立てていくのだと思うし、長岡京市や向日市では総合計画と整合させている。今回はどう考えているのか。

○事務局

前回の策定時には総合計画と人口ビジョンを整合させた。今回も人口ビジョンを総合計画に反映したいと考えている。

○委員

京都府内は京田辺市、木津川市、長岡京市だけが人口増加していて、それ以外は減少している。京田辺市や木津川市では大規模な開発が進んでいるし、京田辺市は大阪方面への利便性が高い。一方、大山崎町では大規模な開発は見られない。考えられるとすれば円明寺の再開発や駅周辺の開発だろうが、それらがないとすれば大きな人口増加要因はないと思う。

○委員

開発ポテンシャルといっても幅がある。今後確実に見込まれる範囲であればB案でもOKではないか。

○委員

B案は自然なポテンシャルだと思う。

○委員

独自推計のパターンが4つ示されているが、これについての議論はどう考えれば良いのか。

○事務局

独自推計1、2では合計特殊出生率をどう設定するかがポイントとなるが、今回は平成27年からの平均とした。試算では開発に伴って出生率が上昇しているが、令和元年の1.85は高すぎると判断している。

独自推計3、4は国が設定しているシミュレーションである。

○座長

どういうパターンで推計するか、決め事はないということだが、事務局としてはどう考えているのか。

○事務局

一般的に人口ビジョンは人口減少をどう考えるのかがポイントとなるが、大山崎町は都市部に属するので過度の心配は必要ない。

出生率は過去直近の5年平均で推計している。

純移動率についてはB案が町の趨勢を現していると考えている。

○座長

みなさん、いかがか？

○委員

実勢に近いのはB案だし、それが良いと思う。

○座長

B案でよろしいか。

○委員

異議なし。

(2) アンケート調査結果の速報について

○日本都市計画研究所

【資料2】アンケート調査結果の速報について説明。

○委員

調査期間が1月4日までとのことだが、これから回収が増えることはあるのか？

○事務局

一定調査票の提出は終わっているため、増えることはないものと考えている。

○委員

町では子育て世代が増加しているが、10ページの「転入するにあたって大山崎町に決めた理由」として、子育て環境が前回調査より減少しているが、今後もっとアピールしていく必要があるのではないか。

○事務局

アンケート結果について今回は速報だが、次回は課題を抽出していきたいと考えている。PR不足という点については、今後積極的に対応が必要であると考えている。

○委員

私の娘がちょうど子育て世代だが、大山崎町に帰ってこない。理由としては、保育園は充実しているものの、地域の道路環境では、ベビーカーで歩ける環境が整備されていない、また踏切も危ないといったことが挙げられ、その他では、小児科医院が少ないといったことも挙げられる。

○座長

アンケート結果を踏まえ、今後の検討に生かしていただきたい。

○委員

防災面の充実をプラスして戦略を立てていただきたい。

それと回収状況が少ないのはなぜか。

○事務局

回収率については、これまで50%程度が多かったが、今回は少なくなった。調査の時期が、一般的に誰もが忙しくなる年末を跨ぐ期間であったため、結果として回収率が下がったものと考えられる。

(3) 大山崎町地域創生推進会議開催日程について

○事務局

【資料3】大山崎町地域創生推進会議開催日程（修正版）について説明。

○委員

会議資料については1日でもいいので事前配布していただきたい。

○座長

他になければ以上で会議を終了する。

7 閉会

以上